



NEWSLETTER

Vol. 1 No. 2

SEPTEMBER 1988

「冠奨学金」でフルブライト計画の充実を

フルブライト計画は、皆様ご存知の通り、1980年らい日米両国政府の同額拠出金（合計年間6億円）を基金として実施されています。ところが、最近の円高ドル安などで、交流できる人数に大きな影響が出てきました。このため1982年、フルブライト計画30周年を記念した事業の一つとして、同窓会を中心に募金活動を開始し、主として日本に招へいする米国人のフルブライターの拡充につとめています。

今年とはくに、同窓会員皆様のご協力をえて、企業関係からの「冠奨学金」の募集を重点的に行いたいと計画しております。

これまでの募金活動を振り返ってみますと、1982年の第一回個人募金では4,400万円余が集まりました。昨年度の第二回個人募金運動では、皆様のご協力をえて約4,600万円の資金を集めることができました。

第一回個人募金を契機として奨学資金のベースを拡大するため、各地区同窓会及び各企業より継続的に寄付をいただくいわゆる「冠奨学資金」を募集してきましたが、これも皆様また企業のご協力で、昨年末までに、その額は、合計3億4,400万円余に達しました。

これら個人、企業による寄付金で、昨年末までに、通常のフルブライト奨学金による留学生以外に、米国人65人、日本人21人に対して奨学金を与えることができました。

現在、この奨学金は、1986年3月に同窓会の尽力によって設立された日米教育交流振興財団（通称フルブライト記念財団、理事長小山八郎氏）を通じて交付されております。同財団は同年10月に寄付金が免税となる資格である「試験研究法人等」の認可をえました。個人の場合、1万円を越えた額について全額、また企業の場合は全額が免税となります。

こうした貴重な寄付金は、日米文化教育交流に有効に寄与していますが、政府拠出金によるフルブライト奨学生以外に毎年10人程度の奨学生を米国から呼ぶには、財団予算は年間最低6,000万円が必要です。そのため、今

年度は冠奨学金の充実をはかることになったわけです。

昨年までに冠奨学金を提供していただいたのは、東北、中国、九州、沖縄の地区同窓会および15の企業で、その大半が毎年継続して出していただいております。



（1987年度のグランティたち。歓迎パーティで）

本年度は、九州、東北の各同窓会、三井グループ、三菱グループ、住友グループ、YKK、モービル石油、双葉電子工業、日本IBM、日産自動車、高橋財団のほか、新たに大日本インキ化学工業に寄付を仰ぐことになっています。現在なお一層積極的に代表的企業に働きかけを行っており、そのうち数社についてはかなり希望を抱ける段階にきております。各方面で皆様のご支援をお願いします。

寄付については、このほか1982年から日米チャリティ・ゴルフ（東京6回、大阪3回）を実施、これにより毎年1人の留学生を呼んでいます。今年は10月17日横浜の戸塚カントリークラブで行い、約500万円の寄付金を計画しています。

同窓会の皆様、友人の方々、それ以外の個人の方からの寄付はいつでも歓迎いたします。募金についてのお問い合わせは〒102 東京都千代田区三番街6番地スミスクライン・ベックマン社内日米教育交流振興財団（電話03-221-1841）へお願いします。（小西輝明 記）

活動の輪を広げよう



1988年度東京同窓会会長

川村 茂邦

この4月、先輩の皆様がたのご推挙によりガリオア・フルブライト東京同窓会会長を仰せつかりました。ここに紙上をおかりしご挨拶を申し上げます。もとより、小山、河村両先輩会長の精力的にしてきめ細かな活動をそのまま踏襲することは、現在の私の事情からは始めから物理的にも難しい状況にありましたので、ご了解をいただき、渡辺副会長に会長代行を併せお願い致した次第です。会員の皆様方のご協力を是非ともお願い致し任務を全うしたいと思っています。

ガリオア・フルブライト東京同窓会会則については、ご記憶されている方は少ないかと思いますが、その第三条(目的)に「本会は、会員相互の親睦を図り、会員の経験、情報をもとにより一層の啓発をはかり、日米親善及び相互理解を増進することを目的とする」とあります。特に“会員相互の親睦”ということばはあらゆる同窓会活動の基本であります。この意図をもって、昨年先輩諸氏のご尽力によりガリオア・フルブライト東京同窓会機関紙“NEWSLETTER”が発刊されました。この“NEWSLETTER”を同窓会本部からの一方的な連絡の

みに終わらせることなく、東京地区全域をカバーした会員相互の通信手段としても大いに活用していただきたいと思っています。同窓会活動が活発に行われるための下地は会員相互の不断の連携と会員の増員にあります。ここで強調したいことは、東京地区3,000名のフルブライターのうち会員登録が約1,200名に留まっているということです。先に「週刊新潮—掲示板」を活用し同窓会のPRと会員募集をさせていただきました。どうか皆さん、我々同窓会の活動の輪を広げるために周囲におられるフルブライターに入会の働きかけをお願い致します。

いま同窓会が取り組んでいるテーマは、我々の力で1人でも多くのアメリカ人留学生を日本に呼びたいということです。今日、日本が経済的にこのように栄え、また一方では日本の国際化が強く求められている時、かつての恩返しの意味も含め、我々がアメリカで学んできた以上に日本の文化や社会や科学技術を正しく理解してもらいたいと切望しています。1986年に設置された日米教育交流振興財団への同窓会の募金活動による寄付金は毎年平均約5,000万円となっていますが、是非これを6,000万円(奨学生10名分に相当)以上に増額したいものです。今年は昨年後半に引き続き企業募金に重点をおいた活動をする事となっており、既にFOUNDATION LIAISONが中心となって「冠奨学金」の募金のいくつかにめどがつきつつありますことは非常に有難いことと思っています。今後引き続き各界でご活躍の皆さんのご支援をお願い致します。

東京同窓会の昭和63年総会

皇太子殿下、同妃殿下をお迎えして



ガリオア・フルブライト東京同窓会は、毎年4月に総会を開き、前年度決算、新年度予算や人事案件を審議したあと、懇親パーティを開いていますが、昭和63年総会は趣きの違ったものになりました。というのは、皇太子殿下、同妃殿下をお迎えすることになったからです。もともとの話は、両殿下が、アメリカからの留学生と、インフォーマルにお会いする機会があれば——というのが“発展”して、懇親パーティにお迎えしたらということになったものです。前の年、訪米されたこともあ

って、日米交流にこのほかご関心をお持ちのところ、東京同窓会の活動に注目されたものと推察します。

この意外な展開に、同窓会執行部は大感激しながらも、“対策”に大わらわでした。まず、出席申込みが殺到して、不本意な“足切り”をせざるをえませんでした(すみません)。スケジュールは分刻みで固めなければならぬし、同窓会活動について事前のブリーフィングをどうするか、当日のマスコミ対策をどうするか——などなど。

4月20日午後6時50分(分刻みのスケジュール通り)、両殿下は会場の工業倶楽部にお着きになり、役員がお出迎えして会場へ。

できるだけインフォーマルに、というご希望もあって、セレモニー部分は、河村会長あいさつ、小山名誉会長の音頭での乾杯だけという簡単なものだけで、すぐに懇親パーティに移りました。ところが、フルブライト・グランティが一人一人お会いしたあとも、一言お話ししたいという同窓生が続出、役員は急拠“交通整理”に汗だくとなりました。

だれと、どんなお話しをされたか、知るよしもありませんが、両殿下は懇親会をお楽しみになられたようでした。

皇太子殿下は、風邪気味で、公式行事へのご出席を止めておられたというので、役員一同心配していましたが、予定を15分も超過され、この日の総会で選ばれた川村茂邦新会長のあいさつで、お送りすることになった。グランティは、またとないラッキーな機会に、大へん感激していたようです。(河村欣二記)

1988 Fulbright Foundation Grantee List (10)

AMERICAN GRANTEES

SENIOR RESEARCHERS (5)

| Name | Birth date | Discipline/Topic | Grant |
|-------------------------|------------|--|---------------------------|
| Mr. ALVAREZ, Louis L. | 01/23/55 | Com. & Journalism: America through Japanese Eyes | YKK |
| Mr. FINLAYSON, Grant E. | 03/31/58 | Law: Role of GATT in Japanese Trade Policy | Putaba Electronics |
| Mr. RYAN, Paul R. | 01/05/32 | Com. & Journalism: U.S. Japan Marine interest | Takahashi Zaidan |
| Ms. SCHNEIDER, Karen S. | 05/07/55 | Art & Art History: Uses Handmade Paper in Japan | Dainippon Ink & Chemicals |
| Ms. VOGEL, Suzanne H. | 01/17/31 | Sociology & Social Work: Housewife/Mother Role | Nissan Motors |

JUNIOR FELLOWS (1)

| | | | |
|------------------------|----------|--|-----------|
| Ms. ROGERS, Jenifer S. | 06/22/63 | Labor Law: Japanese Women Graduate Job Opportunity | IBM Japan |
|------------------------|----------|--|-----------|

SITE-SPEC FELLOWS (2)

| | | | |
|---------------------|----------|---|----------------|
| Mr. WARD, Taylor D. | 01/04/58 | Law: Japanese Corporations Int'l Dispute Resolution | Tohoku Alumni |
| Ms. HEATH, Ann J. | 12/29/60 | Anthropology: Okinawan Shamains-today's roles | Okinawa Alumni |

JAPANESE GRANTEES

GRADUATE STUDENTS (3-Including 1987-88 grantee renewal)

| Name | Birth date | Discipline/Topic | Grant |
|--------------------|------------|--|-------------|
| Ms. AKATSU, Haruko | 03/03/62 | Biological Science: Methodological study of Bioethics | YKK |
| Ms. ENDO, Hiromi | 10/07/61 | Law: History of Immigration Policy in the United States | Mobil Oil |
| Ms. HIRONO, Keiko | 05/03/59 | Economics: Investmentsaving approach to Current Accounts | YKK renewal |

注: (1) 同窓生の寄付によるもの、企業の寄付によるものを含む。
(2) 彼等の研究について、同窓生の中で、指導ないし支援して頂ける方がありましたら、どうぞ事務局か、Hospitality委員会

東京同窓会: 1987年度決算書

(1987年4月1日から1988年3月31日まで)

収支計算書

(単位円)

I. 収入の部

| | |
|----------------------|-----------|
| 1. 1986年度・年会費繰入金 | 102,000 |
| 2. 1987年度・年会費繰入金 | 2,603,300 |
| 3. 1988・1989年度年会費前納金 | 11,500 |
| 4. 同窓会名簿(1986年版)売上高 | 123,000 |
| 5. 定期預金・普通預金利息収入 | 72,463 |
| 6. 1987年度事業収入(特別会計) | 1,752,000 |
| 当期収入合計(A) | 4,664,263 |

II. 支出の部

| | |
|-------------------|-----------|
| 1. 事業費(特別会計) | 3,322,102 |
| 臨時雇賃金 | 52,873 |
| 会議費 | 2,159,117 |
| 通信運搬費 | 749,540 |
| 印刷製本費 | 248,060 |
| 諸謝金 | 10,480 |
| 委託費 | 102,032 |
| 2. 管理費(一般会計) | 2,141,661 |
| 給料手当等 | 877,511 |
| 旅費交通費 | 54,780 |
| 通信運搬費 | 172,154 |
| 消耗什器備品費 | 300,100 |
| 消耗品費 | 180,106 |
| 印刷製本費 | 84,700 |
| 賃借料等 | 393,000 |
| その他 | 79,310 |
| 当期支出合計(B) | 5,463,763 |
| 当期収支差額(C)=(A)-(B) | △799,500 |
| 前期繰越残高(D) | 6,658,224 |
| 次期繰越残高(E)=(C)+(D) | 5,858,724 |

1988年度東京同窓会の主な役員(敬称略)

名誉会長 小山八郎, 河村欣二

会長 川村茂邦

副会長 渡辺 宏, 平野龍一, 功刀照夫, 二瓶恭光, 佐藤ざん子, 田中哲男, 安 威子

監査役 堀 憲明

財団関係委員会委員長

小西輝明

アラムナイ・ミーティング

柴田 実

ホスピタリティ

高沢広茂

バブリシティ

近藤 健

スペシャル・イベント

二瓶恭光

アドミニストレーション

渡辺 宏

事務局長

池田政利

◇ホスピタリティ委員会より

1987年9月以降のアメリカン・グランティに対して、次のような行事を行ないました。

- 1987年11月27日(金) 赤坂東急ホテルで歓迎パーティ。
- 1988年2月25日(木) 国会見学
- 1988年4月20日(木) 日米工業倶楽部で開催した1988年度東京同窓会総会及び懇親会にグランティを招待。

1988年9月以降の計画

アメリカン・グランティの歓迎パーティを秋に催したいと計画しています。

このほか、グランティの希望を聞き、国会、最高裁判所などの見学、相撲、歌舞伎などの観戦観劇なども企画したいと思っています。

また、従来どおり、グランティに対するホスト・ファミリーのあつせんを行ないますのでご協力いただける方はお申し出下さい。

新しい活動があります。

成田空港に初めて到着するアメリカン・グランティがいろいろな面で苦勞しているとの苦情がありました。この件について、同窓会役員会で討議しましたが、すぐに実行可能な案もありませんでした。アラムナイ・ミーティングの柴田実委員長が成田にお住まいのところから、当面、同委員会の活動とは別に成田周辺に在住の同窓会員に呼びかけ、交替で成田に到着するアメリカン・グランティを出迎えていただくこととなります。

ホスピタリティ委員会としては、できるだけこの活動に協力したいと思います。

8月上旬に、ホスピタリティ・プログラムに関するアンケートを送りましたところ、多数の方のご協力をえることができました。この結果を今後の企画、運営に十分に活用させていただきます。ありがとうございました。

来年の東京同窓会総会

◇日時 昭和64年4月21日(金)

午後6時

◇場所 日本工業クラブ(検討中)

◇会費 7,000円程度

G.F. らんたむ通信

☆北陸同窓会結成。北陸三県（富山、石川、福井）のガリオア・フルブライト同窓会が5月8日結成されました。全国で10番目の地区同窓会です。結成の集まりは、同日、金沢市のニューグランド・ホテルで開かれ、三重県在住51人のうち18人が出席。会則を決めたのち、会長に富山大学・元学長の柳田友道氏を選び、また副会長2人、委員長6人を指名しました。

この結成式には、東京同窓会名誉会長河村欣二氏が、東京同窓会および同窓会全国理事会を代表して出席、祝辞を述べました。

☆1957年氷川丸で渡米したフルブライト留学生のグループは、1979年に名古屋で最初のリユニオンを行なって以来、ほぼ2年ごとに、東京、京都、名古屋、横浜と毎回場所を移して会合を持ってきました。

ただ集まってパーティだけではと、3回目の京都では高台寺拝観、東山散策など、4回目の名古屋では徳川美術館見学とそれぞれの開催地ならではのプログラムが作られ、家族同伴で参加する人も多くなりました。

昨年は渡米30周年ということで、氷川丸近辺で集まることとし、東京在住の幹事が、横浜湾クルーズ、観光船上のビア・パーティを10月に計画。ところが、思いもよらぬ台風の接近で航海は断念。お茶の会の後、三々五々氷川丸に乗船、2週間の寝食を共にした船内を見学。

出席者約40人。なかには遠方に住む母の代りに、東京で大学生活を送っているお嬢さんや、フルブライトの母親の母校プリンマーを卒業したばかりのお嬢さんなどが席をにぎわせていました。

このグループは正式に名称も決めておらず会則ももちろんない親睦団体ですが、各回幹事の努力で、78人全員の名簿がほぼ完全にできています。1987年10月現在、外国居住者は10人。残念ながら亡くなられた方が3人おられます。次回は京都で開催することになっています。

(宮尾洋子記)

☆フルブライト'62年同期会。留学して25年になったのを機会に、1962年に渡米したフルブライトで3年前に同期会を開きました。それ以来、毎年秋に相集い旧交を温めています。この同期会の特徴は、参加者の多くがオリエンテーションを米国各地の大学に分散して受講したことです。アリゾナ大、バックネル大、ワシントン大、ハワイ大、コロラド大などに分かれ、1~2カ月間、英語や専攻科目などについて準備教育を受けました。

これまでの同期会の開催状況は次の通り。

第1回 昭和61年10月23日 新宿三井クラブ。

第2回 昭和62年11月19日 同上

今年も次の要領で開催しますので'62年度フルブライトターは是非ご参加下さい。

日時 昭和63年10月27日（木）午後6:30~9:00

場所 霞が関三井クラブ

(霞が関ビル隣の東京クラブ・ビル3階)

会費 1万円（印刷、郵便代を含む）

('62年同期会世話人 田中武雄記)

☆'52年フルブライトター35周年記念集会。昨年11月7日（土）に、フルブライト1952年組の35周年記念集会を日本橋のDICビルで開催しました。全国から99人が出席、オリエンテーション以来、実に35年ぶりの再会を楽しみました。

乾杯の音頭は東京YMCAのオリエンテーション受講者の代表、逆瀬川貞幹さん。彼からはガリオア・フルブライトの各頭文字を読み込んだ自作の短詩が発表され、この集会を意義づけてもらいました。

ガ 頑張り抜いてガリオアの
リ 留学生試験に合格し
オ 重き使命を担いつつ
ア アメリカの地に研修す
フ 不思議やかつての敵国に
ル 類なき好意示されて
ブ 文化の光満喫す
ラ 楽土築かん意気高く
イ 今各界に活躍し
ト 尊き貢献続くかな

35年の世相をうけてスマートだった青年諸兄も年功を経て恰幅のよい熟年紳士となる。一方、当時若かった才媛たちの美しかった面影はあまり変わらないように思われました。(世話人代表 武藤弘道記)

☆コリンズ会・47年前の1951年7月13日、米船コリンズ号で渡米したガリオア奨学生が、記念すべき横浜大榎橋で第一回会合を開いたのは1982年7月13日。それから毎年原則として7月13日に会を持つことにしていますが、今年のは会場の都合で前夜祭として12日に国際文化会館で開催しました。当日、たまたま会館にきあわせていた日米教育委員会のキャロライン・ヤン事務局長も特別参加。往時をしのび思い出話にふけりましたが、ヤンさんから会員各自の体験談、当時のアメリカの実情と現在と比較しての感想などを手記にまとめ記録に残したらとの提案があり有志を集めて具体化することになりました。なお、来年の総会は7月13日に国際文化会館で。連絡係は栗山春行氏（電話は、オフィス866-9461、自宅260-3822）